

## 降水補正を行った新岳北東山麓の傾斜計の変化

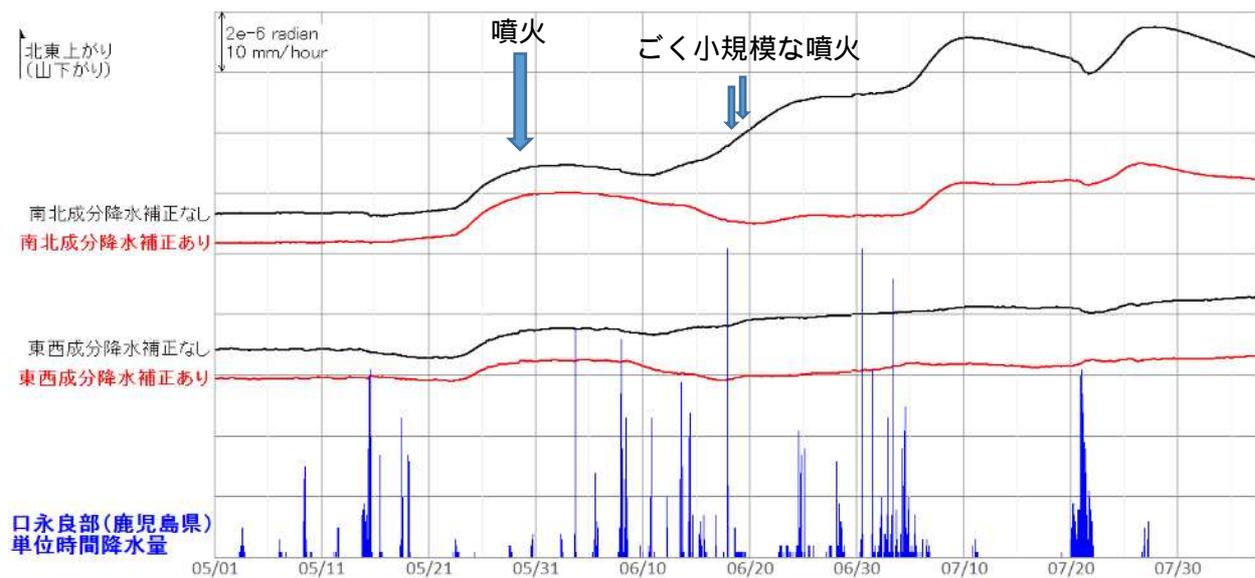
口永良部島新岳北東山麓の傾斜計では、2015 年 5 月 29 日の噴火に先立って 5 月 23 日頃から山下がりの変化が確認できる。その後 6 月 18 日から 19 日頃にかけて山上がりの変化となり、その後再び山下がりの傾向に転じている。

気象庁が口永良部島の新岳北東山麓に設置している傾斜計について、降水の影響が非常に大きいことから 3 段のタンクモデルを用いた降水補正を行った。口永良部島にはアメダスが無いが、鹿児島県が観測している口永良部（傾斜計の南南東約 1.7km）の雨量計の降水量データを用い、2012 年 1 月から 2014 年 12 月の 3 年間で降水補正パラメータを推定した。新岳北東山麓の傾斜計の降水補正は比較的良好であり、特に大雨時の大きな北東上がり（山下がり）の変化を除去することができた。その結果、2015 年 5 月 29 日の噴火に先立って島内で有感地震の発生した 5 月 23 日頃から北東上がり（山下がり）の変化を確認した。その後再び噴火した 6 月 18 日から 19 日頃にかけて徐々に北東下がり（山上がり）の変化であったが、その後は再び北東上がり（山下がり）の傾向に転じている。このような大きな変化は 2014 年 8 月 3 日の噴火の際には生じておらず、また 2015 年 6 月から 7 月にかけては例年に比べて特に降水量が多いことから、これらの変化が火山活動に伴うものであるかどうかについては分からない。

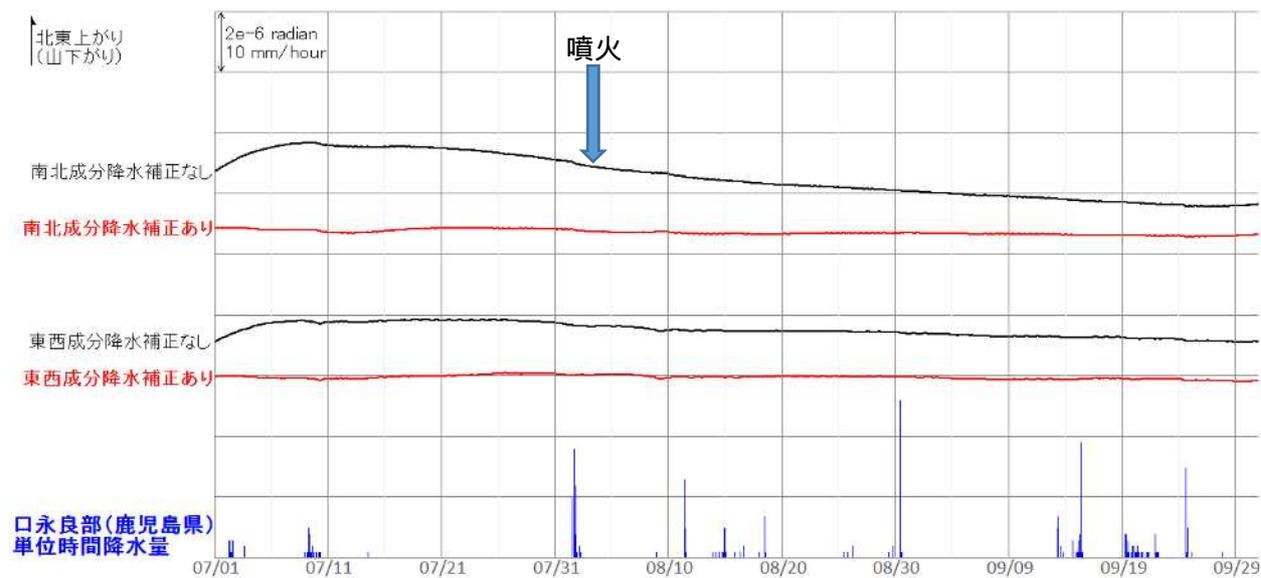


新岳北東山麓傾斜計の時系列グラフ（2011 年 4 月 1 日～2015 年 8 月 6 日）

謝辞 本資料の解析では、鹿児島県の口永良部の雨量計のデータを使用しました。



新岳北東山麓傾斜計の時系列グラフ（2015年5月1日～2015年8月6日）



新岳北東山麓傾斜計の時系列グラフ（2014年7月1日～2014年9月30日）